

令和8年度

「臨床医学講義(集中)」概要

(6年次第2学期)

新潟大学医学部医学科

医学部医学科の教育理念

医学を通して人類の幸福に貢献する

医学部医学科が求める学生像

- ・ 良き医療人・医学者になるための強い学習意欲と科学的探究心を有する人
- ・ 協調性に富み、豊かな教養と人間性、社会に貢献するために必要な倫理観を有する人
- ・ 広い視野を有し、積極的に行動できる人

医学部医学科の教育目標

1. 豊かな人間性と高い倫理性を備え、全人的医療に貢献できる人材の育成
2. 高度の専門性を持つ医療チームの一員として貢献できる人材の育成
3. 広い視野と高い向学心を有する医学研究者・教育者となり得る人材の育成
4. 保健、医療、福祉、厚生行政に貢献できる人材の育成
5. 地域の医療に貢献するとともに、国際的に活躍できる人材の育成
6. 探求心、研究心、自ら学ぶ態度を生涯持ちつづける人材の育成

医学部医学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

医学科では、所定の年限在学し、医学科の教育理念「医学を通して人類の幸福に貢献する」に基づき定められた全科目に合格し、科学的姿勢、コミュニケーション能力、人間性、社会性などの医に求められるプロフェッショナリズムを十分に身につけた学生に学士（医学）の学位を授与する。

新潟大学医学部医学科のアウトカム

I コミュニケーション

卒業生は：
患者・家族及び医療従事者間で適切なコミュニケーションをとることができる。

1. 患者・家族、医師及び他医療職種間と良好な関係を形成し、正確な情報の収集・伝達ができる。
2. 患者・家族に傾聴、共感、支持的態度を示し、適切な診療ができる。
3. 英語を用いて患者と基本的なコミュニケーションをとることができる。

II 医学の専門的な知識

卒業生は：
以下の医学に関する知識を有し実践に応用できる。

1. 各臓器の構造と機能
2. 心理・行動
3. 病態生理
4. 診断と治療
5. 疫学
6. 医薬品と薬理作用
7. 医療機器
8. 医療行政
(予防/保健/福祉/医療)
9. 医療経済

III 倫理観と人間性

卒業生は：
患者・利用者の価値観や背景を理解し、個性を尊重できる。プロフェSSIONALにふさわしい倫理観をもち、礼節ある態度を示すことができる。

1. 法的責任・規則を遵守できる。
2. 患者中心の視点をもち、利他的、共感的に対応できる。
3. 多様な価値観や文化的背景を理解し患者・利用者の個性に配慮できる。
4. 患者・利用者に対して正直、誠実であり、礼儀正しく振る舞うことができる。
5. 研究・医療倫理、医療安全、守秘義務、説明責任を理解し実践できる。

IV 診療の実践

卒業生は：
基本的な診療を指導医の監督下で実践できる。

1. 基本的診療と手技ができる。
2. 診断と治療に必要な検査を選択し、データを解釈できる。
3. 適切な診断ができる。
4. 適切な治療計画が立てられる。
5. 診療記録を適切に記載し、プレゼンテーションできる。
6. チーム医療の重要性を理解し、安全な医療を実践できる。

V 保健・医療・福祉への貢献

卒業生は：
保健・医療・福祉に関する制度や業務を理解し、その改善に貢献できる。

1. 疾病の予防に貢献できる。
2. 患者への健康教育を実践できる。
3. 地域の保健指導を実践できる。
4. 検診、スクリーニングの重要性を理解し実践ができる。
5. 厚生・行政の概要を理解し役割を果たすことができる。
6. 社会福祉、保険制度を理解し実践できる。

VI 地域医療と国際性

卒業生は：
国際的な視野をもちつつ、地域の実情に合った医療を実践できる。

1. 地域の実情（伝統や風習）を踏まえた地域医療を実践できる。
2. 語学に堪能で国際的な視野をもって行動できる。
3. 国際保健に関心をよせ情報収集し、課題解決に取り組める。
4. 海外の学生と積極的に交流できる。

VII リサーチマインド

卒業生は：
基礎・臨床研究に興味をもち、自ら問題を発見し、論理的思考で問題解決をはかることができる。

1. 基礎・臨床研究に興味をもち、研究に取り組むことができる。
2. 自ら未知・未解決な問題を発見し、論理的思考により研究を推進し、問題解決できる。
3. 研究についてプレゼンテーションができ、新しい知見を発信できる。

VIII 自己研鑽・生涯学習

卒業生は：
生涯にわたり自ら学ぶ態度をもち、自己研鑽を続けることができる。

1. 自己主導型学習により課題を設定し、その解決のために正しく情報を検索し、課題解決できる。
2. 自己評価と振り返りを通して生涯学習を継続できる。
3. 現場での実践を通して自己の向上を図ることができる。
4. 探究心、向学心、向上心をもち続けられる。

目 次

1. 時間割表	1
2. コース「臨床医学講義(集中)」	2
3. 分野別試験について	3
4. 講義ユニット	
① 脳神経外科	4
② 臨床病理学	5
③ 救急集中治療医学	6
④ 麻酔科	7
⑤ 胸部外科	8
⑥ リハビリテーション科	9
⑦ 医療情報	10
⑧ 脳神経内科	11
⑨ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	13
⑩ 泌尿器科	14
⑪ 血液内科	15
⑫ 精神科	16
⑬ 消化器内科	17
⑭ 小児外科	18
⑮ 腎・膠原病内科	19
⑯ 小児科	20
⑰ 循環器内科	21
⑱ 内分泌・代謝内科	22
⑲ 放射線科（診断科）	23
⑳ 放射線科（治療科）	23
㉑ 産科婦人科	24
㉒ 皮膚科	25
㉓ 消化器・一般外科	26
㉔ 整形外科	27
㉕ 眼科	28
㉖ 呼吸器・感染症内科	29
㉗ 環境予防医学（公衆衛生学）	30
㉘ 形成外科	31

令和8年度 新潟大学医学部医学科 授業時間割表

6 年次生

3 分の 1 以上欠席した場合は共通試験の受験資格はありません

(対面で実施)

令和8年9月7日(月)～9月11日(金) 第1週 臨床医学講義 (集中)

時間 \ 曜日	月	火	水	木	金
8:30 ～ 10:00	授業予定なし	脳神経外科	授業予定なし	授業予定なし	耳鼻咽喉科
10:20 ～ 11:50		臨床病理学			補講
13:00 ～ 14:30		救急集中治療医学	胸部外科	医療情報	泌尿器科
14:50 ～ 16:20		麻酔科	リハビリテーション科	脳神経内科	血液内科
16:45 ～ 18:00		自習	自習	自習	自習

令和8年9月14日(月)～9月18日(金) 第2週 臨床医学講義 (集中)

時間 \ 曜日	月	火	水	木	金
8:30 ～ 10:00	精神科	腎・膠原病内科	内分泌・代謝内科	授業予定なし	授業予定なし (OSCE再試験日)
10:20 ～ 11:50	補講	小児科	放射線科 (診断科)		
13:00 ～ 14:30	消化器内科	循環器内科	放射線科 (治療科)	補講	
14:50 ～ 16:20	小児外科	補講	産科婦人科	皮膚科	
16:45 ～ 18:00	自習	自習	自習	自習	

令和8年9月21日(月)～9月25日(金) 第3週 臨床医学講義 (集中)

時間 \ 曜日	月	火	水	木	金
8:30 ～ 10:00	祝日	祝日	祝日	授業予定なし	眼科
10:20 ～ 11:50					呼吸器・感染症内科
13:00 ～ 14:30				消化器・一般外科	補講
14:50 ～ 16:20				整形外科	補講
16:45 ～ 18:00				自習	自習

令和8年9月28日(月)～10月2日(金) 第4週 臨床医学講義 (集中)

時間 \ 曜日	月	火	水	木	金
8:30 ～ 10:00	授業予定なし	環境予防医学 (公衆衛生学)	形成外科	授業予定なし	補講
10:20 ～ 11:50		補講	補講		補講
13:00 ～ 14:30		補講	授業予定なし	補講	補講
14:50 ～ 16:20		補講		補講	補講
16:45 ～ 18:00		自習	自習	自習	自習

※分野別試験の日程については、学務情報システムにてお知らせする。

コース「臨床医学講義（集中）」

学習の条件：

卒業ならびに医師国家試験を直前に控えた 6 年次学生。

到達目標：

医学科カリキュラムの最終段階として医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

内容：

医学科カリキュラムの総まとめとして各領域の医学・医療の知識のまとめを行う。

学習方略と注意事項：

- 1) 1 コマ 90 分。各コマは、複数の講師あるいは講座で構成される。
- 2) 出席および授業態度が重要である。
- 3) 分野別試験（卒業試験）は、10 月 7 日（水）、14 日（水）、21 日（水）に実施する。また再（追）試験は、11 月 10 日（火）、11 日（水）に実施予定である。
- 4) 講義のない授業時間は、個人およびグループで自習し、各領域の解剖・生理・生化学的な知識と臨床症候と臨床知識を統合して理解を深めること。

「臨床医学講義（集中）」の分野別試験実施について

学習の条件：

卒業ならびに医師国家試験を直前に控えた学生を対象とする。

各講座の1コマ（90分）を「1」として、課題（小テスト・レポート等）提出などで全体の3分の2以上の出席を確認した学生を対象とする。（9月 計28コマ）

一般目標：

医学科カリキュラムの最終段階として医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

備 考：

- 1) 分野別試験（卒業試験）を行い、その結果をもって評価を行う。
- 2) 分野別試験（卒業試験）に合格した場合には、第2学期7単位の評価を受けるものとする。
- 3) 分野別試験（卒業試験）は、10月7日（水）、14日（水）、21日（水）に実施する。
また再（追）試験は、11月10日（火）、11日（水）に実施予定である。
- 4) 出席数が足りず本試験を受験できない学生は、再（追）試験の受験資格はないこととする。
- 5) 分野別試験（卒業試験）を受験しても後日、出席の集計において受験資格がないと判断された場合は、受験資格を取り消され、当該試験の評価は、不可となる。
- 6) 出席は各講義で課題（小テスト・レポート等）提出などで判断する。また、出欠について不正を行ったことが判明した場合は、この科目の評価は、不可とする。

脳神経外科

9月8日（火） 8:30～10:00

担当教員：大石 誠（脳神経外科）

到達目標：

将来脳神経外科医にならない場合にも必要な脳神経外科領域の医学・医療の知識のまとめを行う。

アウトカム：

- 1) 主要な症候から臨床推論を組み立てることができる。
- 2) 主な疾患の解剖・生理・生化学的な病態を説明できる。
- 3) どのように脳神経外科にコンサルテーションすればよいかわかる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を行う。
- 3) 講義で不足の行動目標は、個人やグループでの自習で理解を深めること。

臨床病理（病理診断科）

9月8日（火） 10:20～11:50

担当教員：谷 優佑（臨床病理学・病理診断科）

到達目標：

将来病理医にならない場合にも必要な臨床病理（特に悪性腫瘍の病理診断）領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 腫瘍の診断と治療における病理診断の役割を理解できる。
- 2) 主要な悪性腫瘍の病理学的特徴を理解・説明できる。
- 3) 病理診断と臨床的治療法との関連を説明できる。
- 4) 病理組織診断の補助的手段である免疫染色について理解・説明できる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

救急科

9月8日（火） 13:00～14:30

担当教員：西山 慶（救急集中治療医学）

到達目標：

急性期疾患への初期診療および重症病態を有する患者への集中治療のアウトラインを理解する。

アウトカム：

- 1) 急性期疾患への初期診療における特徴的な臨床推論や治療介入の考え方を学ぶ。
- 2) 重症病態を有する患者への集中治療における特徴的な臨床推論や治療介入の考え方を学ぶ。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

麻酔科

9月8日（火） 14:50～16:20

担当教員：馬場 洋（麻酔科）

到達目標：

将来麻酔科医にならない場合にも必要な麻酔科領域に関わる医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 主要な麻酔法について把握し、臨床病態から適切な麻酔計画を組み立てることができる。
- 2) 麻酔管理に関連する主な薬物動態を的確に説明できる。
- 3) 麻酔管理を行うにあたって必要な解剖学的知識や、麻酔管理に伴って変化する生理学的病態について説明できる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。卒業試験出題予定問題の解説を行います。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

心臓血管外科・呼吸器外科

9月9日（水） 13:00～14:30

担当教員:白石 修一（心臓血管外科・呼吸器外科）

到達目標:

循環器系・呼吸器系重症疾患に対する処置と手術適応・術前後管理についての基本的事項を修得する。

アウトカム:

- 1) 気胸と呼吸器感染症（急性膿胸、縦隔炎）を診断し、重症度に応じた治療方法を説明できる。
- 2) 大動脈緊急症例の診断と治療方針を説明できる。
- 3) 補助循環の種類と適応、合併症を理解し説明できる。

学習方略:

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については自己学習する。

リハビリテーション科

9月9日（水） 14:50～16:20

担当教員：木村 慎二（病院リハビリテーション科）

到達目標：

将来リハビリテーション科医にならない場合にも必要なリハビリテーション科領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。リハビリテーション医学（運動器（脊髄損傷を含む）リハビリテーション、脳血管障害、嚥下、呼吸リハビリテーションなど）の現代医療における重要性を理解する。

アウトカム：

- 1) 運動器疾患（脊髄損傷を含む）リハビリテーションを系統的に説明できる。
- 2) 脳血管障害のリハビリテーションを系統的に説明できる。
- 3) 嚥下のリハビリテーションを系統的に説明できる。
- 4) 呼吸リハビリテーションを系統的に説明できる。
- 5) どのようにリハビリテーション科にコンサルテーションすればよいかわかる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

医療情報（病院管理学・社会保険学）

9月10日（木） 13:00～14:30

担当教員： 石澤 正博（医療情報部）

到達目標：

病院の管理・運営、医師法・医療法、医療保険制度、社会保障制度、介護保険制度などから病院の置かれている社会的状況について理解し、医師として今後の医療を考える能力を身につける。

アウトカム：

- 1) 病院組織、医療従事者の業務を理解し、職種間連携を説明できる。
- 2) 病院の経営指標を理解する。
- 3) 医療における費用対効果分析を理解する。
- 4) 診療情報の管理、個人情報保護に関する法令等を理解する。
- 5) 社会保障制度と医療経済を説明できる。
- 6) 医療保険、介護保険および公費医療を説明できる。
- 7) 保険医療、診療報酬制度を概説できる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成される。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

脳神経内科

9 月 10 日（木） 14:50～16:20

担当教員：小野寺 理（脳神経内科）

講義題目：診断の先にある医療—ALS から考える AI 時代の医師の仕事

到達目標：

ALS を題材として、「疾患を診断すること」と「病む人を理解すること」の違いを考え、治癒が困難な状況における医師の役割、ならびに AI 時代にも医師が担う判断・対話・責任について、自分の言葉で説明できるようになる。

アウトカム：

- 1) ALS を例に、病態としての疾患（disease）と患者が経験する病い（illness）の違いを説明できる。
- 2) 治癒が困難な疾患において、医師が行うべき説明、意思決定支援、症状緩和、多職種連携を具体的に挙げるができる。
- 3) AI が支援しうる診断・情報処理と、医師が引き受けるべき価値判断・対話・責任を区別して説明できる。
- 4) 同級生の多様な考えを踏まえ、自らが目指す医師像を言語化できる。

事前課題：

指定日までに、以下のレポートを指定された形式で提出すること。詳細は後日連絡する。

【症例】50 歳代の患者が進行する筋力低下を主訴に受診し、精査の結果 ALS と診断された。患者は担当医に、「治らないのであれば、医師には何ができるのですか。これから私はどうすればよいのでしょうか」と尋ねた。

課題：この患者に対し、あなたが担当医であれば、何を伝え、何を確認し、何を行うか。さらに、AI が診断や治療選択肢を提示できる時代にも患者が医師を必要とする理由、および「治せないこと」と「何もできないこと」の違いについて、800～1,200 字で述べなさい。

- ・ALS に関する専門知識の多寡ではなく、患者への向き合い方と、その考えに至った理由を重視する。
- ・臨床実習で経験した症例に触れる場合は、患者個人を特定できる情報を記載しないこと。
- ・生成 AI の利用は可とする。ただし、AI の文章をそのまま提出せず、最終的な立場と理由は自分の言葉で記すこと。末尾に「生成 AI：使用／不使用」を記載し、使用した場合はツール名と利用範囲を 1～2 行で明示すること。生成 AI 使用の有無自体は評価対象としない。
- ・提出内容は、個人が特定されない形で講義中に紹介することがある。紹介を希望しない場合は、レポート末尾にその旨を明記すること。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成する。
- 2) 教員は事前レポートを匿名化して集約し、多くみられた考えだけでなく、少数の異なる視点も講義内で提示する。
- 3) 学生の回答を出発点として、①ALS から考える疾患概念、②診断後に始まる医療、③AI ができると医師が担う責任、④治癒できない状況における対話とケア、を症例に沿って検討する。
- 4) 講義中に短い個人思考または隣席との意見交換を行い、異なる価値観を一つの正解にまとめずに検討する。
- 5) 講義の最後に、事前レポートから自分の考えが変わった点、または変わらなかった点とその理由を 200 字程度で記述する。

評価方法：

事前レポートおよび講義終了時のリフレクションの提出をもって評価する。特定の結論や価値観を正解とはせず、設問に向き合い、自らの考えを理由とともに具体的に記述しているかを確認する。

参考図書：

講義前の必読ではありません。以下から一冊でも、医師になってから折に触れて読んでほしい本です。

〈臨床の知と、患者が経験する「病い」〉

- ・中村雄二郎『臨床の知とは何か』（岩波新書 新赤版 203）
- ・アーサー・クラインマン『病いの語り—慢性の病いをめぐる臨床人類学』

〈脳神経内科が「人」を診るということ〉

- ・オリヴァー・サックス『妻を帽子とまちがえた男』

〈治せないときの医療、対話、ケア〉

- ・國頭英夫『死にゆく患者（ひと）と、どう話すか』
- ・アトゥール・ガワンデ『死すべき定め—死にゆく人に何ができるか』
- ・皆藤章・アーサー・クラインマン・江口重幸『ケアをすることの意味—病む人とともに在ることの心理学と医療人類学』

〈AI 時代に、人間らしい医療をどう残すか〉

- ・エリック・トボル『ディープメディスン—AI で思いやりのある医療を！』

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

9月11日（金） 8:30～10:00

担当教員：堀井 新（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

到達目標：

将来耳鼻咽喉科頭頸部外科医にならない場合にも必要な耳鼻咽喉科頭頸部外科領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 神経耳科疾患の成因、病態、診断と治療を系統的に説明できる
- 2) 側頭骨疾患の成因、病態、診断と治療を系統的に説明できる。
- 3) 鼻副鼻腔疾患の成因、病態、診断と治療を系統的に説明できる。
- 4) 口腔・咽頭疾患および睡眠時呼吸障害の成因、病態、診断と治療を系統的に説明できる。
- 5) 喉頭・気管・食道疾患の成因、病態、診断と治療を系統的に説明できる。
- 6) 頭頸部領域の腫瘍性病変の成因、病態、診断と治療を系統的に説明できる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 手術動画を交えた講義を行う。

泌尿器科

9 月 11 日（金） 13:00～14:30

担当教員：大澤 崇宏（泌尿器科）

到達目標：

全人的医療の実践に必要な泌尿器科疾患の知識と基本的診療技法を習得し、臨床的問題解決能力を高める。

アウトカム：

- 1) 主な泌尿器疾患の成因、病態生理、診断法、鑑別疾患を説明出来る。
- 2) 身体所見、泌尿器科的所見を系統的に説明出来る。
- 3) 導尿などの基本的泌尿器科救急処置について説明出来る。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深める。

血液内科

9月11日（金） 14:50～16:20

担当教員：瀧澤 淳（血液・内分泌・代謝内科）

到達目標：

血液内科領域の医学・医療の知識の総まとめ（国家試験対策を含む）を行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 主要な症候から臨床推論を組み立てることができる。
- 2) 主な血液疾患の病態、診断、治療を説明できる。
- 3) どのように血液内科にコンサルテーションすればよいかわかる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

精神科

9 月 14 日（月） 8:30～10:00

担当教員：朴 秀賢（精神科）

到達目標：

将来精神科医にならない場合にも必要な精神科領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 主な精神疾患の病態生理を理解し説明できる。
- 2) 主な精神疾患の鑑別診断を理解し説明できる。
- 3) 主な精神疾患の治療計画を理解し説明できる。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成されている。
- 2) 事前に精神症候学と主な精神疾患について復習しておく。
- 3) 講義を中心に行う。

消化器内科

9 月 14 日（月） 13:00～14:30

担当教員：寺井 崇二（消化器内科）

到達目標：

全人的医療の実践に必要な総合的な消化器内科の知識と基本的診療技法を習得し、臨床的問題解決能力を高める。

アウトカム：

- 1) 消化器疾患全般にかかわる疾患の成因，病態生理，診断法，鑑別診断を説明できる。
- 2) 身体所見を系統的に説明できる。
- 3) プライマリケア，救急対応について説明できる。
- 4) 臨床推論能力を高める（臨床の基本、国家試験対策も含め）。
- 5) 4 年次の講義に比べ、2 年間で進んだ部分の消化器内科学分野が説明できる。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で補えない行動目標については、自己学習する。

小児外科

9月14日（月） 14:50～16:20

担当教員：木下 義晶（小児外科）

到達目標：

テキストを何度も通読し、小児外科疾患の網羅的復習を行う。テキストと講義から得た小児外科知識を基礎として、臨床実習Ⅰ研修で得た実地の小児外科知識ならびに医療技術との整合性を図り、臨床応用できる小児外科知識と診療手技を身につける。

アウトカム：

- 1) 小児外科疾患の疫学的特徴を理解する。
- 2) 小児外科疾患の年齢別、臓器別疾患概念を理解し、小児外科疾患を系統的に説明できる。
- 3) 代表的疾患の診断・治療法を説明できる。
- 4) 代表的疾患の画像が読影できる。

学習方略：

- 1) 90分の講義。
- 2) スライド画像による視覚的学習。
- 3) 小児外科テキストを基礎として、講義された疾患をより深く学習する。
- 4) 小児外科テキストを何度も通読する自己学習により、臨床実習成果との整合性を図る。

腎・膠原病内科

9月15日（火） 8:30～10:00

担当教員：山本 卓（腎・膠原病内科）

到達目標：

腎臓内科学および膠原病内科学領域の、臨床的に重要な医学・医療の知識と考え方を身につけ、その応用により全人的医療を実践できる医師の素養を得る。

アウトカム：

- 1) 頻度の高い腎疾患および自己免疫疾患の診断において、主要な症候から臨床推論を組み立てることができる。
- 2) 酸塩基平衡異常の病態を説明できる。
- 3) 腎臓内科学および膠原病内科学領域の主な疾患の病態と診断・治療を説明できる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

小児科

9月15日（火） 10:20～11:50

担当教員：齋藤 昭彦（小児科）

到達目標：

小児科領域の診断学について統合的に学ぶ。

アウトカム：

- 1) 子どもと保護者から得られる病歴から、鑑別診断を考える。
- 2) 主な身体所見から、鑑別診断を絞り、必要な検査を行う。
- 3) 検査結果を正しく解釈し、診断に結び付ける。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

循環器内科学

9 月 15 日（火） 13:00～14:30

担当教員：猪又 孝元（循環器内科）

到達目標：

卒業試験と医師国家試験を控えて循環器内科領域の知識を整理する。

アウトカム：

- 1) 循環器疾患の種類と特徴を説明できる。
- 2) 主要な循環器疾患の疫学を説明できる。
- 3) 循環器疾患の病態生理を説明できる。
- 4) 循環器疾患の身体所見を説明できる。
- 5) 循環器疾患の診断に至る検査計画を説明できる。
- 6) 循環器疾患の鑑別診断と診断根拠について列記できる。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

内分泌・代謝内科

9月16日（水） 8:30～10:00

担当教員：曾根 博仁（血液・内分泌・代謝内科）

到達目標：

内分泌・代謝・糖尿病科領域の医学・医療の知識の総まとめ（国家試験対策を含む）を行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 特に内分泌疾患を中心に、病歴や症候や検査所見から論理的に臨床推論を組み立てて、正しい診断・治療につなげることができる。
- 2) 特に糖尿病領域を中心とした代謝疾患において、遺伝的背景、生活環境、心理などに考慮しつつ、食事・運動・薬物療法を個別症例ごとにどのように組み合わせて、コントロールを行うかの基本戦略ならびに、ガイドラインの確認を行う。脂質異常症、痛風など糖尿病以外の代謝疾患についても診断と治療についてポイントを整理する。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

放射線診断科・治療科

9月16日（水） 10:20～11:50

9月16日（水） 13:00～14:30

担当教員：石川 浩志（診断科）、海津 元樹（治療科）

到達目標：

放射線診断科・治療科領域に関する総まとめを行い、全人的医療を実践できる医師に必要な教養的知識を習得する。

アウトカム：

1. 診断科

- 1) 画像検査の種類・適応・役割を説明できる。
- 2) 画像解剖を理解し、異常所見を説明できる。
- 3) 異常所見に基づき鑑別診断を挙げることができる。
- 4) 画像検査におけるリスクを説明できる。

2. 治療科

- 1) 放射線治療の目的を説明できる。
- 2) 放射線治療の適応疾患を説明できる。
- 3) 放射線治療方法の種類について説明できる。
- 4) 放射線治療における有害事象を説明できる。

学習方略：

- 1) 2コマ＝180分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

産科婦人科

9月16日（水） 14:50～16:20

担当教員：吉原 弘祐（産科婦人科）
西島 浩二（総合周産期母子医療センター）

到達目標：

将来産婦人科医にならない場合にも必要な産婦人科領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 主要な症候から臨床推論を組み立てることができる。
- 2) 主な疾患の解剖・生理・生化学的な病態を説明できる。
- 3) どのように産婦人科にコンサルテーションすればよいかわかる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

皮膚科

9 月 17 日（木） 14:50～16:20

担当教員：阿部 理一郎（皮膚科）

到達目標：

将来皮膚科医にならない場合にも必要な皮膚科領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 主要な症候から臨床推論を組み立てることができる。
- 2) 主な疾患の解剖・生理・生化学的な病態を説明できる。
- 3) どのように皮膚科にコンサルテーションすればよいかわかる。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

消化器・一般外科

9月24日（木） 13:00～14:30

担当教員：若井 俊文（消化器・一般外科）

到達目標：

将来、消化器・一般外科を専門としない場合にも必要な外科領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 主要な症候である腹痛から臨床推論を組み立てることができる。
- 2) 腹痛を主体とする消化器疾患の成因、病態生理、診断法、鑑別診断、手術法を説明できる。
- 3) どのように消化器外科にコンサルテーションすればよいかわかる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 国家試験に対応した講義・問題の解説を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

整形外科

9 月 24 日（木） 14:50～16:20

担当教員：川島 寛之（整形外科）

到達目標：

将来、整形外科医にならない場合にも必要な整形外科（運動器）領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得する。

アウトカム：

- 1) 主要な症候から臨床推論を組み立てることができる。
整形外科では小児から高齢者の運動器疾患を担当することから、その診断プロセスを自ら組み立てることができる：「主訴に焦点をあてる、初期仮説を設定、鑑別診断をあげる、仮説検証による疾患の決定、説明」。
- 2) 主な疾患の解剖・生理・生化学的な病態を説明できる。
整形外科で扱う急性疾患（外傷、スポーツ傷害、脊椎脊髄疾患、関節疾患）から慢性疾患（変形性関節症、リウマチ）、骨・軟部腫瘍、骨代謝疾患、乳児から小児の成長障害、それぞれの病態を説明できる。
- 3) 整形外科における治療方法：保存療法、手術療法、およびリハビリテーション、さらには患者毎にめざす ADL, QOL について説明できる。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。小テストをおこなう
- 3) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

眼科

9月25日（金） 8:30～10:00

担当教員：赤木 忠道（眼科）

到達目標：

主要な眼科疾患の知識を習得し、臨床的問題解決力を養う。

アウトカム：

- 1) 眼科検査及び所見について系統的に説明できる。
- 2) 主要な眼科疾患について成因、病態、診断と治療を系統的に説明できる。

学習方略：

- 1) 講義「眼科学：まとめ」を聴講する。
- 2) 講義は、代表的な眼科疾患から選択して症例と所見を提示し、Q/A方式で行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については自己学習にて理解を深める。

呼吸器・感染症内科

9月25日（金） 10:20～11:50

担当教員：菊地 利明（呼吸器・感染症内科）

到達目標：

将来呼吸器・感染症内科医にならない場合にも必要な呼吸器・感染症内科領域の医学・医療の知識のまとめを行い、全人的医療を実践できる医師として十分な素養を獲得することで、臨床的問題解決能力を養う。

アウトカム：

- 1) 主要な呼吸器・感染症疾患の症候や身体所見、画像所見、および検査成績から臨床推論を組み立てることができる。
- 2) 主な呼吸器・感染症疾患の解剖・生理・生化学的な病態、診断、および治療を説明できる。
- 3) どのように呼吸器・感染症内科にコンサルテーションすればよいかわかる。
- 4) 呼吸器系における最近の進歩について説明できる。

学習方略：

- 1) 1コマ＝90分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 呼吸器・感染症内科疾患の内科診断学の教科書を読む。
- 4) 講義で不足の行動目標については、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

公衆衛生学

9 月 29 日（火） 8:30～10:00

担当教員：中村 和利（環境予防医学分野）

到達目標：

医師国家試験の出題範囲である公衆衛生領域の知識のまとめを行い、公衆衛生的視点をもって医療に携わることができる知識と考え方を身につける。

アウトカム：

- 1) 医師国家試験の公衆衛生出題内容について理解できる。
- 2) 公衆衛生における医師の役割を理解できる。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については(特に国家試験出題範囲)、個人やグループで自習を行い、知識を統合し、理解を深めること。

形成外科

9 月 30 日（水） 8:30～10:00

担当教員：松田 健（形成外科）

到達目標：

形成外科における再建外科、美容外科の基本概念と対象疾患および適切な治療方針の立て方について、総括を行う。先天異常の治療、主要切除後の再建をふくめ、形成外科が患者の社会復帰について果たす役割について具体的な疾患を通して学習する。

同時に医師としての基本的な心得、とくに QOL 向上に向けての美容外科の基本的なあり方、社会への貢献について学習する。

アウトカム：

- 1) 形成外科の治療対象の把握ができる。
- 2) 基本的な再建外科の意義と治療方針を体系的に説明できる。
- 3) 美容外科についての概略を理解する。

学習方略：

- 1) 1 コマ＝90 分で構成されている。
- 2) 講義を中心に行う。
- 3) 講義で不足の行動目標については自己学習する。